



朝日学園・みつ朝日学園連合PTA広報誌

Trinity

トリニティー

Vol.12

2021



CONTENTS

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1— はじめに・ごあいさつ | 14— 特集Ⅱ 卒業生インタビュー |
| 2— 学園歌 | 17— 表彰 |
| 3— 特集Ⅰ 校園長インタビュー | 19— インタビューで知る朝日学園 |
| 7— 幼稚園 | 21— 行事一覧 |
| 9— 小学校 | 23— 数字で見る朝日学園 |
| 11— 中等教育学校 | 25— 朝日学園教職員一覧 |



朝日学園
グループ

<https://www.asahijuku.ac.jp>

はじめに

平素は、朝日学園・みつ朝日学園連合 PTA の活動に対しまして、多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年続く自然災害に加え、新型コロナウイルス感染症の流行といった大きな脅威に直面した 2020 年度。将来の予測が困難な VUCA 時代にありながらも、今まで見過ごしがちだった「本当に大切なもの」「大切にすべきもの」を再認識する機会が多く生まれた年でもありました。トリニティーと共に誕生し、学園全体で歌い続けてこられた学園歌「朝日をあびて」の中には、“信じること”や“感謝”という歌詞が数多く出てきます。子供達が各々の絆を信じて、未来に向かって前進できるよう、これからも各校園のPTAが三位一体となり、朝日学園すべての子供達に寄り添い、よりよい活動を行っていきたいと思います。

各校園の教職員・保護者・関係各位の皆様にお力添えいただき、本年度も連合PTA 広報誌「トリニティー」第12号を発行することができました。この広報誌を通して、連合PTAの活動・各校園の魅力が伝わり、朝日学園・みつ朝日学園が皆様と共に益々発展されることを祈念しております。

朝日学園・みつ朝日学園連合PTA会長 三宅 優美

ごあいさつ

学園長 鳥海 十児

朝日学園・みつ朝日学園連合PTAは、朝日塾幼稚園・朝日塾小学校・朝日塾中等教育学校のPTAの3本の柱で成り立っています。それぞれが子供達のために、また幼稚園や学校のために、力を出してくださることに大いに感謝しています。また、本年度はコロナ禍において様々な制限がある中で、各校園の苦渋の決断の連続に保護者の皆様をはじめ教職員や多くの関係者にご理解をいただき、寄り添いご協力を賜り誠にありがとうございました。物資の不足する折には、多方面からマスクや消毒液などご寄附いただき大変助かりました。物心共にご支援ご協力いただけます事、紙面上ではございますが、改めて厚く御礼申し上げます。

ところで、戦国大名の毛利元就は、用意周到で合理的な戦略家として知られていますが、子供の教育にも熱心であったといわれており、ある日、わが子3人を集めて「1本の矢では折れやすいが、3本合わせれば折れにくい」(三矢の訓)の話をして協力の大切さを説いたということです。単に強度が3倍になるのではなく、協力することでそれ以上の強さになり、3倍以上の力を発揮できるのです。3本の柱が連携協力し合い、子供達の未来のために、また学園の発展のために力を出し合って、これからも前進していけるようお力添えをよろしくお願いいたします。



学園歌

「朝日をあびて」

朝日学園・みつ朝日学園連合PTA 作詞
園田 幹子 作曲
金丸めぐみ 編曲

さあ 歩きだそう はるかな道 力いっぱい この瞬間を
ひとりの力 小さくても 手をつなぎ 仲間を信じて

海にむかって とびたつ鳥 はるかかなたに 未来があると
信じる勇気くれたのは ここにいる仲間
ありがとうの気持ちをこめて 自由の空へ とびたて
こころに大きな華を咲かせて すばらしい未来へ すすもう

海にむかって とびたつ鳥 新たな大地に 未来を創る
豊かな知識くれたのは ここにある学びや
ありがとうの気持ちをこめて みどりの地球みつめよう
朝日をあびて 輝く笑顔
ありがとう We are blessed with everything

ありがとうの気持ちをこめて みどりの地球みつめよう
朝日をあびて 輝く笑顔
ありがとう We are blessed with everything



子供達が実際に歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます



各校園の園歌・校歌が聴けます

■朝日塾幼稚園 園歌



園児達が実際に歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます

■朝日塾小学校 校歌



児童達が実際に歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます

■朝日塾中等教育学校 校歌



岸田敏志氏が歌ったものを
YouTubeでお聞きいただけます

特集I 校 園 長 イン タ ビ ュー

今回は、「校長先生や園長先生の学生時代の部活や趣味が知りたい!校長・園長になって変わられたことやストレス解消法など、お人柄のわかるような座談会を」とのリクエストにお応えしました。

杉本 裕介 Yusuke Sugimoto
1975年(昭和50年)4月12日生まれ A型

神奈川県立秦野高校・中央大学 法学部卒
妻と二人暮らし



好きな食べ物:肉・スイーツ お薦め:三宅商店水辺のカフェの季節のパフェ
苦手なこと、モノ、人:マヨネーズ、ホラー映画 得意な教科:日本史
幼いころになりたかったもの:電車の運転士
感銘を受けた人・言葉:為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり
(米沢藩第9代藩主上杉鷹山公の名言) チャレンジしてみたいこと:チェロとサキソフォンの演奏



斉藤 輝三 Kizou Saitou
1948年(昭和23年)2月1日生まれ O型

岡山県立矢掛高校・岡山大学 教育学部卒
妻と二人暮らし(愛犬ハル)



好きな食べ物:フルーツ(特にシャインマスカット) お薦め:山陽青空市場・農マル園芸
苦手なこと、モノ、人:細かい手作業、お寿司、わがままな人 得意な教科:社会
幼いころになりたかったもの:SLの機関士
感銘を受けた人・言葉:大学時代の恩師・前向きに生きて、人生を楽しもう
チャレンジしてみたいこと:世界一周



永野 和子 Kazuko Nagano
1967年(昭和42年)12月9日生まれ A型

岡山県立倉敷青陵高校・香川大学 教育学部卒
慶應義塾大学 経済学部在学中 夫と二人暮らし



好きな食べ物:いちご お薦め:MISAO牧場のチョコミントジェラート
苦手なこと、モノ、人:ナビのない車の運転・お酒 得意な教科:理科(特に生物)
幼いころになりたかったもの:宮大工
感銘を受けた人・言葉:二宮尊徳「道徳なき経済は罪悪であり、経済なき道徳は寝言である」この言葉を知り、大学で学び直そうと思った。
チャレンジしてみたいこと:ベリーショートの金髪・空手



斉藤: 私は、中学は軟式テニス、高校は科学部、高3は同級生に誘われお楽しみで調理部(食物部?)でした。大学では男声合唱部で、顔で判断されてベース(バス)担当にされました。今年も7月にOB会で演奏会を開くはずでしたが、コロナで中止になりました。コロナが流行る前は毎月1回、東京・水戸・名古屋など全国から集まってルネスホールの地下で練習をしていました。

永野: 私は、中学の時は新設されたばかりの剣道部でした。練習が厳しくて、しんどすぎて死ぬほど嫌でした。部員は60人からスタートし、最後まで残ったのは5人。辞めたかった思い出しかありません。

杉本: そんなに辛かったのに辞めなかった理由は?

永野: 小学校からの親友が一緒だったからかな。高校でも流れて剣道部に入部。臭いし、痛いし、しんどいし…親が心配するくらい青アザだらけで、嫌になって辞めて、一転華やかな硬式テニス同好会に入りました。茶道部にも週1で行っていましたが、その実お菓子を食べに行っている感じでした。

大学では児童文化研究会に入り、島の小学生とキャンプをしたり、子供会でイベントをしたりしていました。バイトとサークル三昧、大学は最低限の出席。時々行って、要領よく人のノートを借りて勉強をし、テストに受かる感じでした。専攻が美術で人と違うファッション、人と違った作品を創る。人と同じ考えでないことばかりを求めている、へんてこりんな服を着てキャンパスを歩いていました。

杉本: 私は、中学は軟式野球。音楽が好きで小3からピアノを習っていました。高校は吹奏楽部。体格がよいというお決まりの理由でチューバになりました。浪人をして19歳で大学入学。野球と吹奏楽は細々と24歳くらいまでやっていましたが自然にフェードアウト。ひたすらバイトに明け暮れ20歳から予備校で90分1コマの授業を週6日20コマくらい持っていました。受験戦争真っ只中で、受験英語を教える正社員並みに働いていました。ピアノはやめてだいぶ経つので手が動きませんが、いつかまたやりたいと思っています。

永野: 私も随分バイトに明け暮れました。家庭教師、結婚式場、

老舗の天ぷら屋など。讃岐うどん店では腕が使い物にならなくなるほどひたすら大根と生姜をすりおろしていました。

齊藤先生は何かされていませんか？

齊藤: 随分昔のことですが、夏のイグサ刈りや家庭教師、飲料ケースを運ぶバイトなどいろいろやりました。バイト代は何に使ったか覚えていないけれど、サークルなどに使ったかな？お二人は、何に使われましたか？

杉本: 予備校で貯めたお金は、ほとんど食事に費やしていました。自炊ができなかったので牛丼・ラーメンなど外食ばかりしていました。服やその他のことには興味がなく、エンゲル係数が高かったな(笑)。今から思うと海外経験を積めばよかったと思います。

永野: 私は、美術の授業でゴッホの模写をしていたら本物の作品が見たくなり、バイトで貯めたお金を持ってアメリカに行きました。当時叔父がNYにいたので、1か月ほどホームステイをしてボストン、ワシントン、フィラデルフィアなどの美術館を巡りました。

齊藤先生は、海外で暮らしていらっしゃいましたよね。

齊藤: はい、教諭時代に文科省から募集があって3年間マレーシアのクアラルンプールで勤務しました。日本人駐在員が多く、その子供が通う生徒数700~800人規模の日本人学校に派遣されました。日々の教育実践と現地理解教育に取り組みました。当時は、小・中のサッカー部のコーチもしていました。

2度目は管理職としてアメリカのフィラデルフィアの補習授業校で3年間勤務しました。日本から来た自動車製作者や医療関係者の子供が多くおり、日本に帰国しても遅れをとらないようにするために土曜日に補習授業校を開校していました。校舎を借用していたフレンズ・セントラルスクールはモーリス家の邸宅で、明治時代に新渡戸稲造・内村鑑三・津田梅子・野口英世などの偉人達が入り出していた由緒ある建物で、現地の先生を採用して私一人で学校運営をしていました。

現職中、海外派遣のチャンスは2回でしたが、退職の時にシニア派遣でワシントンに行く機会に恵まれました。そこでは、メリーランド州2校、バージニア州1校の計3校の校長として赴任し、私と教頭2人の3人で毎週土曜日に3校をローテーションで回りながら学校運営をしていました。補習授業校は保護者の協力なしで学校運営はできません。管理運営委員会の委員長は保護者の方で、お互いの信頼関係を大事にしながらやっていました。運動会など大きな行事は学校と保護者が一緒に作り上げていき、とてもやりがいがありました。現在の朝日塾の保護者の皆さんも学校運営にとっても協力的で感謝しています。

校長ではありますが、補習授業校のマスターキーを借りて校舎内すべてのカギを開けて子供を迎え、下校後再び全ての戸締りをしていました。人の採用など現地の方とのやり取りなども全てしていましたが、あらゆる事において保護者はもちろん現地の方々もとても好意的に接してくださいました。



2009.4 ワシントン
ホワイトハウス前にて

アメリカ滞在中、夏休みにカンザスシティで派遣教員の研修会があり、車でアメリカ大陸を横断しました。グランドキャニオンがすごくてとても感動したのを思い出します。

杉本: 素晴らしいご経験ですね。私は海外経験が1度しかないことが悔やまれます。お二人のお話を聞くとすごいなあと。私は、学生時代にイギリスに友達がいたので2週間行ったのですが、食事が合わなかったのも、それ以降海外には行っていません。日本食が一番おいしい。

幼い時から親に連れられて国内旅行をよくしていたためか、旅行は好きで、今でも3日以上休みが続けば旅行に行っています。

歴史好きで、お城好き。一番良かったところは長野県松本市。松本城中心に町ができていて町の感じがいい。食事もおいしく、松本を離れる日の昼食は必ず「おきな堂」



おきな堂ポークステーキ

という喫茶店を訪れます。70歳ぐらいになったら松本に住みたいと思っています。岐阜県と長野県の境にある上高地の景色がいまだに忘れられません。町のまとまり感という意味では、倉敷の美観地区、岡山市街地も好きです。オフレコですが、自分が行ったお城の中で岡山城は残念ながらワースト3に入ります。後楽園、お城の外観、お城周辺の感じが良いので期待を持っていただけに、お城の中はちょっと期待外れでした…。壁を叩いたら「コンクリートです!」といった感じでガッカリしました。

永野: そういう視点でお城を見たことがなかった…今度お城に行ったら壁を叩いてみようと思います!

私は、仕事や語学留学で海外には10ヵ国以上行きまし

た。海外は常に珍道中でした。一番感動したのはペルーのナスカの地上絵。セスナに酔って吐き気と戦いながら上空から地上絵を見ました。砂漠の何も無いところにあるインカの黄金や遺跡等にすごさを感じ、日本にはない風景や雰囲気が感動的でした。10年ほど前、死ぬまでに富士山頂とオーロラを見に行きたいと思っていました。



2013.8二宮教頭(右側)と富士山頂にて

2つとも実行できましたがフィンランドはあいにくの天気です。オーロラは見れなかったのも、また訪れたいです。暮らしやすそうだったのはオーストリアのウィーンです。年を取ったらここで暮らすのもいいなと思いました。古い街並み、芸術の街といわれますが、清潔で美しい街でした。

斉藤: ところで中央大の法学部は、国家試験合格率がよく有名ですが…

杉本: 国家試験目的ではなく、国際政治を学びたいと思い入学しました。学園長が「いつか朝日学園の卒業生が国連の事務総長になってくれたら」と仰っていますが、大学に入ったときは国連の職員になりたかった。教員免許を取ったのは大学を卒業してからです。

校長になって2年目ですが、今まで以上に教育関係の情報を意識するようになりました。元々本屋に行くのが好きで岡山には大きな本屋が多くて嬉しい。教育分野の本やニュースは、今まで以上に意識して読むようになりました。

それと、特に体調に気を付けるようになりました。前校長先生が入院され、1か月後ぐらいに教頭が交通事故に遭われ、保護者や先生方から厄除けをしたほうがいいと言われ、祈祷師を呼んだ方がいいのかと本気で考えたこともありました(笑)。

永野: 自分では園長になって何が変わったのかよくわかりません。何か変わったのか…変わってないのかもしれない。

私にとっては、衝撃の人事、青天の霹靂でした。大学卒業後一度教職に就きましたが5年ほどでやめて、企業に勤めたり、農業をしたりしました。教員はしないと決めて平成20年の夏に朝日塾幼稚園に1年間の産休代替の事務職員として入職しました。契約満了時に小学校へと声がかかり、小学校や中等で事務や広報をして今日に至ります。事

務や広報で学校を支えていく事にやりがいを感じていました。教員にという話も何度もありましたが、断り続けていました。

園の先生方は教育のプロ、ベテラン揃いなので安心してお任せして、私は違う分野で支えていけたらなあと思っています。今までもそうであったように幼小中まとめて学園全体として考えていきたいと思っています。その中で、新しい教育システムや新しい学校の在り方を考えて提案していけたらと思います。

杉本: 意識として大きく変わったことがなくても、そういう視点・観点を常に大事にしているのだから、それはそれでいいことではないでしょうか。

永野: 思いの根源は、学園の永続。いつまでも未来に朝日学園があって欲しいという思い。在校生はもちろん、卒業生のためにも、保護者の皆様のためにも、教員や地域の人のためにも存続させたいという気持ちです。

幼児教育は激変の時期。こども園や無償化とか時代が大きく流れている。私学の幼稚園として、建学の精神をぶらさずに園を残していきたい。そこに尽力できたらいいなあと思っています。

杉本: 不易流行。変わらないことも大切なことだと思います。

斉藤: お二人は、校長・園長になられたばかりですが、私は教員よりも管理職の年数の方が長くなりました。

教員時代は子供と一緒によく遊び、子供との関係を大事にしていたのですが、管理職としては子供プラス保護者との関係も大事にしています。保護者の協力を得ながら学校運営をして、教員との関係も大事にして先生の持っているいいところをしっかりと出してもらって風通しのいい学校を作っていきたいと思います。日々かわいい子供達に会える。これが何よりの喜びです。子供達の良さをしっかりと伸ばしていきたいし、子供達の成長を教職員、保護者と一緒に楽しませてもらっています。

杉本先生同様に健康には充分気を付けています。気力も充実しています。妻が聞き役になって、すべて吸収してくれているのでストレスをためることがありません。ストレス解消法は、と問われて思いつかないので、何かあるかなあと妻に聞いてみたら「ハル(トイブドール)の散歩ぐらいじゃない?」と言っていました(笑)。

息子家族から2年間預かっていたハルが、10月下旬に孫たちの元に帰るので、ペットロスになりそうです(涙)。

杉本: 私のストレス解消法は食べること。保護者の皆さんが協力的なので正直なところ、そこまで大きなストレスは感じていません。茨城(鹿島学園高等学校)では、それぞれの部活動の保護者やOB会とのつながりは活発でしたが、学校と保護者全体の交流はあまり活発ではありません

んでした。朝日学園グループでは、幼小中のつながりや連合PTAでの活動があり、「学校を支えていただいている」と実感する機会が多いです。保護者の皆様から「精神的に追い詰められているのではないかとご心配いただくことがあります、それほどストレスは感じていません。斉藤先生同様に妻の理解も大きいと思う。今まで東日本にしか縁がなかった妻が岡山について来てくれて、前向きに楽しんでくれているのでありがたいと思っています。ちょっとしたストレスがあっても肉と甘いものがあれば解消ができます。そのぐらいで解決するようなストレスしかないな。

永野: お二人ともステキな奥様ですね。

杉本: 妻は山形県の米沢市の出身。同じ予備校の事務職員だったので、仕事への理解が得られました。夜12時に家に帰って来て、2時・3時に寝るような生活でしたが、そんな生活を理解してくれていたのがよかった。学校に勤めるようになってから、普通の生活になりました。

永野: 今年度、コロナ禍で去年までのやり方とは違うカタチで園の運営をさせてもらってきましたが、無理難題を突き付けられたことはありません。教職員も保護者も協力的です。大きなストレスは感じていないのかなあと感じます。気分転換は、読書です。シンプルな英文の小説を読むと普段働かない脳が動いて、無理やりにでも現実や日常から離れることができ楽しいなあと感じます。

あと、学校説明会や募集活動のイベントで朝日学園に通わせたいと思われている保護者との出会いがあるとすごく嬉しい。わが子を朝日学園で学ばせたいという保護者の声を聴くと元気が出るので、休日の広報活動も働いている嬉しさがあり、苦にはなりません。振り替えてお休みもいただいています。まあ、たいいていのことは、王将の餃子（良く焼き）を食べると解消します。

杉本: たしかに休日に仕事をしていることが多いと思いますが、そこは苦にはなりませんね。今、国際バカロレア (IB) の認定に向けて、先生方に頑張って勉強していただいています。先生方が頑張っているのに自分がIBのことを理解していないのはおかしいと思うので自分も勉強しています。(※R2.10.16DP実施校に認定・R3.1.27MYP実施校に認定されました)

斉藤: 大人になってからも学び続けることは、大切ですね。先生たちもそうですが、子供達には広い視野を持ち続けて行って欲しいと思います。

杉本: そうですね。必ずしも海外に行かないといけないというわけではないが、自分の過去の経験を振り返ってみても外に目を向けてもらいたいなあ。アジア圏も含めた海外に目を向けて行って欲しい。

また、Withコロナの時代、学校教育目標の1つである利他

の精神を大事にし、自分の言動に責任をもって生活して欲しいと思っていますので、生徒に話をする際には、「利他」に触れるようにしています。

永野: 私は本からたくさんのことを学びました。自分の経験だけで得られるものは限られています。子供達には自分の価値観ではないものにもたくさん触れて欲しい。本の形は未来には変わるかもしれませんが、たくさん本を読んでもらいたい。

視野が広くないと、これからは自分だけの価値観や自分だけの視野で生きていくのは難しくなってくる。これから先、いろいろな事を超えて生きていかないといけないが、親の価値観や自分の経験だけで対応できないものが世の中にあふれています。今は映像などいろいろ吸収できる時代にはなっていますが、本から得られるものは大きいと思っています。

幼稚園の子はまだ本が読めませんが小さいうちからの読み聞かせがとても大事だと思っています。自分だけの観点や親の考えだけで凝り固まった見解で物事をとらえずに、しなやかに未来を生きていける、そんな子供に育てて欲しいと願っています。

斉藤: 杉本先生・永野先生の視野を広げる方法と共に、大人が子供をしっかりほめることも大切だと思っています。「Good jobグッドジョブ」 「Excellentエクセレント」 「Niceナイス」 「Wonderfulワンダフル」 「Greatグレート」と大げさにほめ、間違った答えを言っても、頭からだめとは言わずに「Nice tryナイストライ」と言って、次の意欲をかき立てていただきたいと願っています。必ず目と目を合わせて、コミュニケーションをはかることも忘れずにいてください。子供達が楽しそうに登校し、生き生きと学習に取り組む、充実した学校生活を送ってくれることが、何よりも嬉しいことです。保護者の皆様には、後押しをお願いいたします。

